

平成29年度小松市立月津小学校 学校評価

めざす児童生徒像

○ 学び続ける意欲を持ち、学んだことを生活に生かせる子  
 ○ よく気づき、友だちや学校のために進んで行動できる子  
 昨年度より児童も教師も「行きたい学校」を目指して、「自分たちで楽しい授業を創る、人を幸せにする活動を推進する」を重点に取り組んできた。その結果、授業で発言する児童、人のために活動する児童の数は増え、「月津小をい学校にしよう」という機運が高まっている。今年度は、急速に変化する社会に対応して行くには、小学校期には、学びに向かう力の育成が特に必要と考え、学ぶ意欲と学びに必要な資質(課題設定、挑戦、根気、他者尊重等)を授業はもちろん、教育課程全体の活動を工夫することで育てていきたい。

※児童生徒達成結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
学校重点項目 (学校で設定)	学が意欲の向上	キャリア教育 ①②の項目を70%以上にする	① 友だちの話や考えがわかるように、最後まで聞いている。	71.4	99.4		28	・①②の目標指標は達成できた。 ・しかし、①②について、教員のA評価「とてもそう思う」は両方とも「0%」であったのに対して、児童のA評価は「67%、77%」と高い。教員と児童とでめざす姿の共有がしっかりと図れていないことが原因と考えられる。 ・子どもたちと目指す「聞く姿」について、再度、教職員で共通理解を図り、具体的なイメージを児童と共有する必要がある。また、そのための手立てを焦点化し指導の徹底を行う。 ・難しいことに挑戦すると話し、どういふことなのかを児童と話し合い、挑戦できる機会を増やしていく。	・子どもたちと目指す「聞く姿」について、再度、教職員で共通理解を図り、具体的なイメージを児童と共有する必要がある。また、そのための手立てを焦点化し指導の徹底を行う。 ・難しいことに挑戦すると話し、どういふことなのかを児童と話し合い、挑戦できる機会を増やしていく。	
			② 活動する時に、自分でめあてを決めて取り組んでいる。	85.7	98.1		12.4			
			③ 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。	57	98.7	74.9	41.7			
			④ 授業や家庭学習では、進んで学んでいる。	71.4	97.4		26			
			集計	71.4	98.4		27.0			
学校重点項目 (学校で設定)	集団生活の充実	豊かな人間性 全ての項目を80%以上にする	① 「行きたい学校」をつくるため、学校やクラスのことを考えて行動している	86	97.4		11.4	・保護者のお手伝い項目以外は、目標指数である80%を達成できた。保護者のお手伝いの項目も73.3%であったが、昨年度調査の67.7%からは伸びている。 ・①③④は、昨年度からの学校の重点項目である。特に、①について児童のA評価は64.5%であり、昨年度末の37%よりかなり伸びていることがわかった。	・お手伝いについては、各学級で奨励したり、育友会の学級代表委員会を通して、お手伝い週間を設けるなどして、児童だけでなく保護者も巻き込んでお手伝いを広めることを今後も継続していく。 ・挨拶については、目指す姿を「いつでも・どこでも・だれにでも」として、取り組んでいく。	
			② 家で進んで手伝いをしている		87.7	73.3				
			③ よいことをしてくれる人を見たら、「ありがとう」の気持ちで伝える。	92.3	95.5		3.2			
			④ 自分から進んで挨拶をしている。	100	97.4	82.4	-2.6			
			集計	92.8	94.5		1.7			
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究 ①③⑤の項目を80%以上にする	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている	100				・①③⑤については、目標指標を達成できた。しかし、⑤のA評価は、25%である。学校運営の重点とされているので、その中心である学校研究について、共通理解や共通実践をもっと明確に、焦点化していく必要があると考えられる。 ・②については校内研修を1学期に行ったにもかかわらず、A評価が65%で、C評価は15%であった。これからもグループやペア、全体交流などでの話し合い方や表現の指導について、共通理解や共通実践に向けた校内研修が必要であると考えられる。	・⑤については、学校研究と関連する下の段の「授業に関する項目」の②③④⑥について共通理解や共通実践が徹底できるよう、働きかけを工夫し、取り組んでいく。 ・②については、8月末に再度研修目的の共通理解を図り、実践にまでつなげるよう、研究通信で研修内容をまとめて発信する。また、授業参観では、役割を分担し、グループやペア学習の様子を見とり、授業整理会での協議に活用していく。	
			② 学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	85						
			③ 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している	100						
			④ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している	100						
			⑤ 共通実践の大切さを理解し、全職員で全校児童を育てる意識をもって取り組んでいる。	91.7						
			集計	95.3						
	指導力の向上	授業 ①③④の項目を80%以上にする	① 児童生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる	100	98.1		-1.9	・①④については、目標指標を達成できたが、③の教師評価については目標を達成できなかった。その原因については、1学期は「聞くこと」に力を入れて教師が指導してきたが、具体的な「聞く」姿を共通理解したり、それに向かう共通実践をステップアップを図る。10月は、ペア・グループ交流の段階的指導を全校からだと思われ。 ・④についてのA評価は41%である。よかったことや大事なことをまとめることは実践できているが、ふり返りを書いて学びを自覚する活動については、時間がなくてできないという反省が多い。タイムマネジメントやふり返り方の工夫が必要だと考えられる。 ・②⑥については、9月1日に各教室で「聞く」ことや「聞く」時の大切さを考え、集団に応じためあてを持ち、全校に発表し、9月に「聞くこと」大切プロジェクト」月間として2週間単位で検証しながら「聞く」力のスナップアップを図る。10月は、ペア・グループ交流の段階的指導を全校からだと思われ。頂いたことを授業や朝の会等で実践する。 ・③について、「聞く」力高める取組を徹底することで、聞き手を意識した話し方を児童が話し方のポイントで理解し活用できるよう指導する。 ・④について、ポイントを焦点化して書かせ、短い時間でも確実にふり返りする。また、タイムマネジメントを意識した授業を徹底し行う。	・②⑥については、9月1日に各教室で「聞く」ことや「聞く」時の大切さを考え、集団に応じためあてを持ち、全校に発表し、9月に「聞くこと」大切プロジェクト」月間として2週間単位で検証しながら「聞く」力のスナップアップを図る。10月は、ペア・グループ交流の段階的指導を全校からだと思われ。頂いたことを授業や朝の会等で実践する。 ・③について、「聞く」力高める取組を徹底することで、聞き手を意識した話し方を児童が話し方のポイントで理解し活用できるよう指導する。 ・④について、ポイントを焦点化して書かせ、短い時間でも確実にふり返りする。また、タイムマネジメントを意識した授業を徹底し行う。	
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	92	96.8		4.8			
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	67	94		27			
			④ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	92	94.9		2.9			
			⑤ 一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、児童の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できる	92	99		7			
			⑥ 聞くことの大切さを理解し、児童の聞く力を高める授業改善に努めている	100						
	集計	90.5	96.6		6.1					
	学力的定着	学力調査・教科	①②⑤の項目を80%以上にする	① 学力調査の自校採点の結果は全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている	100				・①②⑤については、目標指標を達成できた。①については、自校採点をすべての職員で分担して行い、全職員で課題を見つけることができているが、分析が計画より遅れたために抵抗感がなくなるようにさせていく。課題が十分に共通理解できているとはいえない。 ・④について、南部校区では授業の進め方や家庭学習等で連携を図っているが、職員間に意識が十分浸透しているとは言えない。 ・⑤の基礎学力については、平均80点以上の児童の割合が80%に達している。しかし、低学年の割合が高く高学年の割合が低い状況にある。	・学力調査の分析結果から、2学期、基礎基本の定着と書くことを重点的に取り組む。書くことについては、機会をできるだけ増やし、書くことに抵抗感がなくなるようにさせていく。(授業・行事の振り返り、感想、日記、帯タイムでの複写等) ・ロードマップを指導計画綴りファイルするなど、身近なところに用意し、日々の実践での意識を高める。 ・小中連携の取組について、特に授業づくりと家庭学習についての共通実践を継続させていく。 ・基礎基本の力をより定着させる・主体的に学習に取り組む場として、チャレンジタイムの取組方を8月に再提案し、2学期に全校をあげて実践していく。
				② 学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている	92					
				③ 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている	83					
				④ 学力調査の結果や分析について、近隣等の中学校と成果や課題を共有し、教育課程に関する共通の取組を行っている(小中連携)	70					
				⑤ 基礎的な学力が定着し、各単元末のテストの平均点を80点以上とする。	80					
				集計	85.0					
	学力的定着	家庭学習	②③の項目を80%以上にする	① 自分で計画を立てて勉強している。(3年以上)	61	94.9	65.1	33.9	・②③の目標指標は達成できた。 ・①については、家庭学習強化週間を設定し、ふり返りカードに目標や学習時間を記録するなどの取組により、計画的に学習しているとする児童の割合は高い。保護者、教職員の割合は60%前後であるが、計画的に取り組めている様子はうかがえる。	・家庭学習の目的を習慣化と習熟として、共通理解し、取り組む。 ・教科書を使っている学習は、復習を中心として、基礎学力の定着を目指す。 ・児童にやる気の起こる家庭学習の評価を考え実践していく。
② 予習・復習やテスト勉強などの自学学習において教科書(授業でのノート・資料等)を使いながら学習している(3年生以上)				100	96		-4			
③ 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。				91						
集計				84.0	95.5	65.1	11.5			

	目標・具体的取り組み	取組の状況（8月提出）	取組の成果と課題（3月提出）
生徒指導	児童・教職員で「行きたい学校づくり」を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの6年生の月津防衛軍、5年生の挨拶ふやし隊に加え、朝活動の時間を設け、全校児童が誰かのために活動する時間を毎日設けるようにしている。その効果もあり、児童アンケートでは、肯定的な評価は97.4%であり、徐々に定着してきている。今後はマンネリ化しないよう、目的を児童らと共有した上で、主体的に活動できるように環境を整えていくことが大切である。</li> <li>・挨拶に関しては97.4%の児童が自分たちの挨拶を肯定的に評価しているが、毎朝の挨拶運動では目的意識の希薄化が感じられる。全校であいさつやありがとうを言い合う良さを再確認し、推進していけるような機会を児童会を中心に設けていきたい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行きたい学校」は全員の力でつくるという共通理解のもと「人を幸せにする活動」に全校児童が取り組むようにする。</li> <li>・あいさつの活性化、特に「ありがとう」の言葉が多く聞かれる学校にする。</li> </ul>		
特別支援教育	全校的な特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童理解の会を工夫して行い、組織的な対応」について、学校評価の教員アンケートでは、そう思うが62%、どちらかと言えばそう思うが38%であった。二学期は、「気になる子への対応の仕方」等について研修を行い、組織的な対応を図れるようにしていくことが大切だと考える。</li> <li>・特に気になる子については、専門機関と早急に連絡をとって対処していくことが重要である。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解の会の持ち方を工夫し、気になる子への対応の仕方について共通理解を深め、組織的な対応ができるようにする。</li> <li>・校内委員会を効果的に設定し、関係機関との連携を密にすることで、課題の早期解決を図る。</li> </ul>		
道徳教育	道徳教育の充実に向けた基盤をつくる	道徳の教科化にむけて、道徳教育の目標や評価についての研修を受け、情報や資料を集めた。それを活用して、道徳の目標や評価、授業についての校内研修を夏休み中に行う予定である。道徳の授業については、考え、議論する授業実践ハンドブックを活用した研修を行い、重点項目において学習指導案をたて、2学期以降に各学級1授業を行う。その実践を別業にまとめる。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期学習指導要領の内容項目や評価について、先進校等から情報及び資料の収集を行う</li> <li>・考え、議論する授業実践ハンドブック等を活用した学習会の開催</li> </ul>		
キャリア教育	基礎的・汎用能力の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話をよく聞く態度を身につけること」について、4月に指導主事を招聘した校内研修を実施し、共通理解を図った。研修後は、実践しやすいように指導項目を記したチェックカードを全教員がもち、指導にあたった。しかし、学校評価の教員アンケートでは、「友だちの話や考えが分かるように最後まで聞いている」と思う教員が71.4%に対し、児童アンケートでは99.4%と高く、今後も目指す「聞く姿」の共有を図らなければならないと考える。</li> <li>・朝の活動では、それぞれに課題を持ち、ボランティア活動や委員会、学級の係活動に取り組めるようになってきている。マンネリ化させないことと、教師から与えられた課題ではなく、周りの状況を見て自分で課題設定できる児童を増やすことが今後の課題である。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等で友だちの話をよく聞く態度を身につけることで人間関係形成・社会形成能力の涵養を図る。</li> <li>・朝活動とそうじの時間の目的を児童の課題設定、課題発見、意思決定の場面と設定し、課題対応能力の涵養を図る。</li> </ul>		
保健健康教育	安全に関する指導の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練（火事・地震）を行い、災害時の初期対応の研修を深めた。今後は、その反省を安全・防災にさらに役立てていけるよう見直しを図っていかなければならない。</li> <li>・危機管理マニュアルについては、夏季休業中に地域合同で大学の教授を招いた防災研修を行い、見直しを図る。</li> <li>・児童アンケートからヘルメットの着用率は72.7%で、昨年度よりは上がったが、まだ約20%の児童が着用していないという現状であった。教職員アンケートでも「家庭と連携を図って取り組んでいる」割合も低いので、引き続き児童に指導するとともに、PTAとも連携してヘルメット着用の大切さを伝えていかなければならない。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の初期指導体制の充実を図るという視点から危機管理マニュアルの見直し・初期対応の研修を行う</li> <li>・自転車に乗る時のヘルメットの着用率を高める</li> </ul>		
家庭・地域との連携	実践活動を通して連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お手伝いの促進」「ヘルメット着用の向上」について、学級懇談会の話題にしたり、広報誌で啓発したり、会長の話の中に盛り込んだりしてきたため、実践している割合は昨年度より増えている。今後も継続し、さらに学級代表委員会等からのアプローチも考えられる。</li> <li>・6月に地域の避難所設営委員会に参加した。8月に地域合同防災研修を開き、町内会長や防災士が参加する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とは「お手伝いの促進」「ヘルメット着用の向上」という具体的実践を通して連携を深める。</li> <li>・地域とは、合同防災訓練実行委員会を開き、今年度は「災害時の初期体制」をテーマに研修機会を設け、連携を深める。</li> </ul>		

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルメット着用やあいさつについては、地域で見ているとアンケートの数字よりもよくなってきている。ヘルメット着用も大切だが、交通事故に合わずに済む指導をしてほしい。また、学校で決めたことであるから、規則を守るという意味で守らせたい。あいさつについては、毎日子ども達のために一生懸命に見守って下さる防犯隊の方に特に感謝の意を表すことを指導してほしい。地域と一緒に、たくさんの人に感謝できる子どもに育てていきたい。</li> <li>・月津小の子ども達にはもう少し積極性があっていいのではないかなと思うので、「聞く」ということはとても大切なことであるが、同時に「話す」ということも大切にして指導してほしい。</li> <li>・「お手伝い」について、最近では親がさせないことが多いので、学校で子ども達に何のために手伝いをするのかという指導をすると効果が上がる。</li> <li>・中間評価や最終評価は、1年間の変化だけでなく、昨年度と比較し、その違いもわかるとういのではないかな。</li> </ul> <p>&lt;保護者のアンケート記述から&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校のやり方は、今のままでよいと思う。集団登校を望んでいる人がいるが、その人たちには、他の学校では集団登校のデメリット（車が突っ込むと大事故になる、時間に集まらない子が 出てくる、いじめ等の問題が起きやすい）等についても伝えていくとよい。機会があると良い。</li> <li>・子どもは自分の思い込み等を家庭で話すことがよくある。そういうことも踏まえて、職員は言葉遣いに気を付けていくとよいのではないかな。</li> </ul>
---------	---